



## HEADLINE

- 認定NPOの仮申請をします
- 今後の10年をめざす運営方法の提案
- 自主事業「アイーナ夜学」便利
- イベントの報告と今後の予定

平成26年4月10日 発行

## 本号の内容

代表理事挨拶	1
新しい運営体制	2
アイーナ夜学便り	3
イベントのご案内	4

会員数	合計	132
	個人	90
	市民団体	15
	事業者	20
	行政機関	7

環境パートナーシップいわて10周年記念事業が開催されました

## 環境パートナーシップいわて 認定NPO特集 ニュースレター 第21号

# 10年後に向けたきずなを、より強く、より広く・・・！

### 代表理事から

2011・3・11の忌まわしい三陸大震災・大津波は、多くの命、多くの心、多くの生活基盤を奪ってゆきました。図らずも翌年2012年に環境パートナーシップいわては、節目となる創設10周年を迎えました。

改めてこの10年を振り返り、県内外の多くの方々との交流の中、特に「岩手県地球温暖化防止活動推進センター」(2005指定)「岩手県環境学習交流センター」(2006委託)運営・活動での出会いときずなは、私たちの大きな財産となっています。

今後の運営と活動について、MG委員会(Management and Governance Committee)を発足させて、議論を重ねて来ています。今までの繰り返した活動では、私たちの活動として意味を持ちません。今後10年に向けた活動は、当面の課題に柔軟に対応しつつ、今まで培われてきたきずなを大切に一層多くの方々との連携を強めて、環境理念と活動理念に添った活動へと進化させ、豊かな環境に恵まれた岩手ならではの満足度の高い社会貢献をして行く事は必須です。

## 「認定NPO」について

### ■ 認定NPOとは？

NPO法人のなかで運営組織および事業活動が適正であり、広く公益の増進に寄与する活動を行う団体を所轄庁が一定の基準で判断し、これに適合したものを認める制度です。認定NPO法人として認定された団体は、一定のお墨付きを得たことになり、社会的信用度が高まります。また、認定NPO法人に寄付をする人に対しては、税制上の優遇措置があるため、寄付が集まりやすくなります。このため認定NPO法人は、さらに公益に資する活動を行うことができます。

### ■ 認定NPO法人になるためには

活動内容が不特定多数の人々の公益に資するものでなければなりません。運営組織、経理面、事業活動の内容、情報公開が適切に行われていることが必要です。さらに事業報告書などを所轄庁に定期的に提出していることや法令違反、不正行為、公益に反する事実がないことが必要条件です

当面の主な活動については以下の通りです。

### ①今後の運営に関する重要案件

- ・26年度中 仮認定NPOの認定を受けること(申請中)
- 目的: 運営組織の改編・係人達の意識改革・開かれたNPO・自主事業の充実(要件: 寄付@3千円×100人以上/年・寄付者税優遇措置・事業への賛同者を募る)

### ②大震災・大津波被災地への環境支援の一環として主な取り組み

- ・「三陸自然学校大槌」の支援(全国に発信できる特異な自然と教育プログラム)
- ・廃食油のディーゼル燃料化(BDF)の全県的収集と活用システム構築・被災地での再構築
- ・市民出資発電所への支援(第1号野田村だらすこ発電所・持続型地域経済の活性化)

### ③上記ほかプロジェクトへの支援(寄付)の公開募集

- 県民の満足度の高い効果的な環境プロジェクトの提案
- \* 支援(寄付)のお願いについては 仮認定NPO認定後に具体的に各プロジェクト毎に賛同頂ける様に提案する

### ■ 仮認定申請とは

今回当法人は、仮認定の申請を3月6日に岩手県庁に提出しました。仮認定とは本認定の前の状態ですが、運営状況などに求められる条件は本認定と変わりありません。違うのは現在得ている寄付が一定額に達していないためです。認定NPO法人になるには、3,000円以上の寄付者100名以上が毎年必要です。活動内容に社会的認知度、信用度がなければ、これだけの寄付者を集めるのは困難です。

### ■ 今後の取り組み予定

3,000円の寄付者100名以上を2年間にわたり集めた場合、本認定の条件がそろいます。このため26年度、27年度に寄付者をつることが必要です。当然その間の運営にも適正さが求められます。2年間の寄付者名簿がそろい、運営状況の適正さを証明する書類とともに、28年4月以降に本認定の申請を行いたいと考えています。このためにも本法人は、広く会員の皆様、一般の皆様の支持を得る活動をしていく必要があります。

# 認定NPOにむけて新しい運営体制を検討しています

## 1. 10年の振り返りと今後の10年に向けて

### (1) 10年間の振り返り

10周年を迎えた「環境パートナーシップいわて(環ぱい)」。多くのご支援を4つの活動時期、「発足期」、「NPO期」、「再構築期」そして「復興支援期」としてまとめました。この振り返りの中で、優れた取組みをいかし、今後10年の活動に役立てていくことを確認しました。

### (2) 優れた取組みとこれまでの感謝

10周年誌で報告しましたが、環ぱいは事業受託を行いつつ、独自の取組みを模索しつづけてきました。その取組みは、自主事業の形で、厳しい経費の状況下、担当者の熱意とボランティアの精神で支えてきました。環ぱいの独自ブランドを築いてきたこの取組みに、心から感謝申し上げます。

### (3) 今後10年の目標と実施体制

今後10年の活動のテーマは、この「自主事業」です。これまでの優れた取組みを継承しつつ、独自の視点で、自主事業を企画し推進することになりました。この実施のために、「マネジメント&ガバナンス委員会」では、今後の管理方法の検討を重ねてきました。「認定NPO」は、その検討で生まれた新しい組織運営の方法です。

### (3) 寄付活動への体制作り

環ぱいは、以上の4つの目標に沿って事業企画と運営を行い、県民や全国の皆様の期待に応えていきます。この独自の事業活動を支えるために、自主財源となる寄付活動が必要になりました。このため、平成26年度から認定NPOへの申請活動に取組むことにしました。

## 認定NPO時の運営組織と委員会名

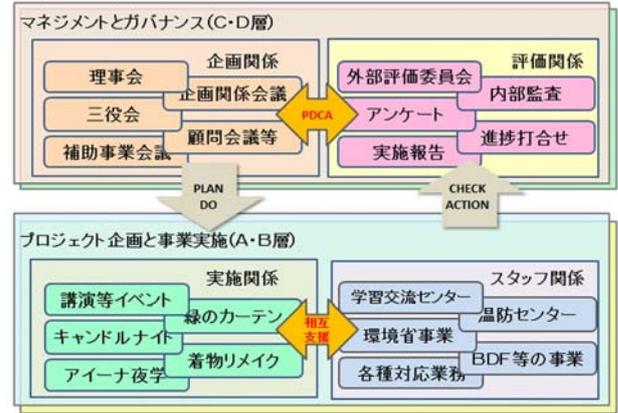


図2 認定NPO時の委員会の構成案

## 環境パートナーシップいわての管理体制

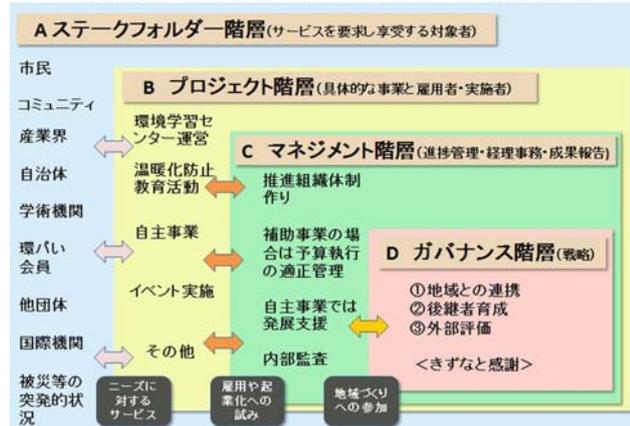


図1 環境パートナーシップいわての管理体制の全容

## 2. 認定NPOに向けた組織の整備

### (1) 組織全体の目標の共有

まず、環ぱいとはどんな団体であるか、共通認識を絞る必要があります。定款に明記していますが、より簡潔には、図1のように組織を表すことができます。つまり、県民や自治体等のニーズに対し、プロジェクト企画をし、「地域との連携」「後継者育成」「外部評価」にむけ、管理を行う団体です。活動内容は多彩になりますが、この運営の中心に「きずなと感謝」を置く、としました。

### (2) 4つの目標と評価体制

環ぱいの自主事業や受託事業は、10周年記念誌に示した「4つの目標」に沿ったものとします。4つの目標とは、①震災復興支援、②環境を考慮した地域作り、③新世代のリーダー育成、④啓発と教育活動です。図2にその事業の企画、実施、評価のプロセスを示します。各事業は、評価を通じて改善を重ね、地域ニーズに迅速に対応していく運営体制としました。

## 3. 独自の魅力を持つ環境事業団体のために

### (1) 4つの目標を3つの手段で実施

では、4目標に沿った自主事業をどう企画し管理や指導をしていくのでしょうか。図3に、その概要を示します。4つの目標には「学び」「応援」「提言」の3つの手段があり、環ぱいの自主事業とは、この座標軸に沿った活動であると考えます。その視点で、企画や運営指導をしていきます。そして10年後、図3のすべての要素が埋め尽くされる事業が実現している想定しております。

### (2) 支援者にわかりやすいしくみづくり

例えば震災復興をめざす「三陸自然学校大槌」は、震災復興と地域作りの目標に沿って学び、応援、提言に至る活動を行っている位置付けます。また、「緑のカーテン」は、震災復興を目標とした「応援」「提言」の事業です。認定NPO団体になったときは、このような位置付けに対し、外部評価を通じて成果の管理を行います。その結果、多くの支援者からの寄付行為が、どのような成果に結びついたか、説明責任を果たします。以上のことから多様な寄付や連携等の「きずな」を、地域への「感謝」の形に変えていく所存です。

## 自主事業の位置付けと指導管理



図3 自主事業の企画と管理方法

# 環境政策提言をめざす自主事業の事例 「アイーナ夜学」の取り組み

## 1. 提言活動をめざす自主事業「アイーナ夜学」

今後10年の自主活動では、「学び」「応援」の活動に加えて、積極的な「提言」の活動を重視しています。例えば、環境基本計画や震災復興に関する提言活動や多様な地域作りにおける諮問活動のことで。現在、環パいの自主事業では、アイーナ夜学(夜学)が、その活動を継続しております。例えば夜学で取組んだ「エコロジカルフットプリント」は、CO<sub>2</sub>の再生産の視点で、市町村や国単位で、消費可能なモノやコトの限界や政策のあり方を検討する方法です。具体的には「地球2個分」等の表現で評価しますが、市町村単位の環境政策として、何を重点課題とすべきか、提案活動に応用できる考え方になっています。

## 2. 「未来の地域づくり」に必要な視点

岩手では人口減が予想されており、その一方では地球環境問題が深刻になっています。これらを総合的に考えた多様な課題を、一斉に検討する必要があります。その検討方法として、地域社会をひとつの「システム」として見ていく考え方があります。その考え方では個別の環境課題を考慮しつつ、地域の全体目標や産業や暮らしに対する配慮をしていきます。夜学ではその方法により、総合的に判断する環境負荷に関する勉強会や調査を重ねてきました。その結果、「エコロジカル・フットプリント」の考え方に着目してきました。

## 3. 生活様式が意味する環境負荷

個人の生活は、様々な要因で成り立っています。衣食住の個別要素である衣服、食べ物、住宅、また日常使う自動車や電気製品などはすべて、国内外の素材が使われています。紙や金属などの素材の節約は大事なことです。なにかひとつだけ節約すれば環境課題が解決するというものではありません。これをシステム構造の視点で考えると、「ある生活様式が成り立つのなら、その様式を支える多数の要素が存在し、この要素の総和が環境負荷となる」と考えられます。エコロジカルフットプリントは、この包含関係の発想に基づき、総合的に環境負荷を計算する方法です。個々の日常的な生活様式から推測して、「その生活様式を支えるために、どれだけ地球面積が必要か」との視点で、総合的な環境負荷を表わす考え方です。

## 4. 「ハカローくん」の開発体験から

以上のエコロジカル・フットプリントの考え方を背景に開発したのが、「ハカローくん」という環境負荷計測装置でした。ハカローくんは、日常生活の様式それ自体で、地球何個分の負荷を与えるものが見積もりができます。開発にあたり、英国の教材等を参考にしました。ある特定の商品やガソリン、電力等の「モノ」でしたら、CO<sub>2</sub>換算でこのくらいとの数値が明らか(Carbon Foot Printといいます)ですが、ハカローくんでは「生活様式」、つまり、普段から輸入品をよく使っている、コンビニ食品をよく食べている等々の生活の習慣から環境負荷を推定し、その生活の改善を呼びかけていました。このこともあり、図5で示すように、親子のコミュニケーションを促進する側面がありました。環境教育面の効果は大きなものがあり、図6に示す環境エネルギー学会で発表し、また震災後に開催した図6のイベントでも公表してきました。

## 5. 認定NPOに向けた自主活動の活性化のために

震災復興の地域作りの方針や県の環境基本計画は、「ありたい未来の生活様式」を提案する内容のものです。それは、個別のモノやコトの改善提案を超えた「地域システム全体」を対象としています。あるべき生活様式とは何か。それはちょうど、ハカローくんの逆の分析活動を意味します。「このような暮らし方をすれば地球が汚染物質を完全に再生できる?」。こうした未来社会の想定と政策の提言は「持続可能な社会づくり」に必須のものです。夜学では早くからその有効性に気づき、環境計画等へのパブリックコメント活動等を行ってきました。夜学は既に90回を超える開催回数になりました。今後も環パい自主事業のユニークな実績を作っていく予定です。



図4 アイーナ夜学の様子



図5 ハカローくんの公開の様子



図6 エコロジカル・フットプリント紹介



図7 森と水と命の惑星国際会議での公開

アイーナ夜学は、毎月第3木曜日、環境学習交流センターで、19時から21時まで開催しています。ここで話された意見は、政策提言等に活かしていく予定です。参加費は無料です。いろいろな視点を持つ方々の参加をお待ちしております。

# マネジメント&ガバナンス委員会便り



## 環境パートナーシップいわて10周年記念事業を実施しました

- 10周年記念誌を編集委員会(佐藤清忠委員長)で、検討と編集作業を進め、4,000部を印刷し配布を行いました。2013年9月に「再生可能エネルギーフォーラム2013 in盛岡」を開催しました。(参加者71名)
- 12月の「三陸復興フォーラムin大槌ーふるさとの自然とともにー」にあたり、実行委員会を組織し4回開催しました。
- 沿岸の現地視察、フォーラム当日には、実行委員会と講師らとの情報共有ミーティングを行いました。(のべ235名)
- また、秋・冬2回、「三陸自然学校in大槌」を共催しました。



現地視察(陸前高田)盛土によるかさ上げ工事が始まりつつある現地ガイド

大槌・小釜の皆さんによる着物リメイク・ファッションショー



「三陸復興フォーラムin大槌ーふるさとの自然とともにー」増田寛也講師



## マネジメント&ガバナンス委員会だより



CO<sub>2</sub>削減、  
しましょう!

環ぱいは今後もIPCC等が提案するCO<sub>2</sub>削減目標に向けて、積極的な啓発活動や3R、温暖化防止活動、環境学習活動を推進していきます。

- 環ぱいは平成24年度に10周年を迎え、これまでの活動の総括、今後の運営のあり方を探る目的で、マネジメント&ガバナンス委員会(MG委員会)が発足しました。ここで意見交換した内容は、本特集をはじめ今後発行する認定NPO特集のニュースレターで、随時、紹介していきます。
- MG委員会の目標を端的に表現するなら、左の「エコハッちゃん」から右の「アース王子」への活動継承があります。エコハッちゃんは環ぱいにとって、CO<sub>2</sub>削減を呼びかける啓発のキャラクターでした。この10年間のエコハッちゃんの頑張りもあり、岩手県はきっと、CO<sub>2</sub>削減目標を達成すると思います。
- エコハッちゃんの永年の活動に感謝し、今後一層の啓発活動を行います。しかしこれからの10年は。被災地を含め地域や地球全体を見ていく環境活動が待っています。「アース王子」は、CO<sub>2</sub>の削減を呼びかけつつ、既に日常生活で広がっている環境活動を承認し、今後の地域や地球全体を考え、積極的に提案していく、「環境王国にふさわしい生活」を築く使命を持つキャラクターです。この取組みは既に始まっていますが、環ぱいはこの活動を「認定NPO団体」にすることでより一層、活性化していく所存です。

新しい環ぱい体制に対し、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



スゴ〜イ!  
その暮らしを、  
おすすめしよう!

環ぱいは環境問題と復興支援活動を通じて「世界に誇る地域社会」を提案していきます。

## 環境パートナーシップいわてのイベントの予定

1. 第11回通常総会  
会場 サンセール盛岡 盛岡市志家町1-10(TEL 019-651-3322)  
一般公開講演会(環境システム研究所代表取締役の原田鎮郎氏予定)
2. 理事会  
5月24日(土)午後1時30分 「定期総会に向けて」アイーナ6F 講師控室1・2
3. 環境学習講座  
1) 星空ガイド2014 4月26日(土)13:30~15:00 講師:吉田偉峰  
2) 惑星スケールで考える地球温暖化 4月27日(日)13:30~15:00 講師:吉田偉峰  
3) 和布巾着入りプロポリス石鹼「日伯(にっぽく:日本とブラジル)の絆」 5月10日(土)13:30~15:00 講師:大和田加代子
3. 特別講演会(計画中)  
7月12日(日) 会場: サンセール盛岡  
山脇正俊氏(スイス・近自然学研究所代表 チューリッヒ在住)



環境パートナーシップいわてでは、認定NPOに向けて新しい運営体制づくりに取り組んでいます。皆様のご支援をお願いします。

特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて マネジメント&ガバナンス委員会

連絡先 〒020-0045 岩手県盛岡市駅西通1丁目7-1

いわて県民情報交流センター(アイーナ)5階 環境学習交流センター内 電話:019-606-1752 FAX:019-606-1753

〒020-0124 岩手県盛岡市厨川5丁目8-6 電話:019-681-1904 FAX:019-681-1906

Email: kanpai@utopia.ocn.ne.jp